



文化再振

字源
繪入

庭訓往來

皇都 福壽軒

主不應無光人不學
 益智文字者支出智
 掃光之碌磨年知字
 彙義則於理何暗累
 今庭訓式用字類加
 干頭者教知雅為請
 別於文略也庶熟致
 以上達矣



史記

庭訓の付来し事一
 此の御代に産まじき
 つし人まじくは
 孝行の成るは
 百ん年未のそ
 持しつては
 百年をまは
 可なりけり
 三月と
 御代に
 御代に



庭訓性来

春始御代向首方定候中
 富貴万福公事甚は
 期許心期日之人
 孝行御代人
 思延川以首書

九段八庫

春始沖候

正月朔日の御書
まかり子の目れ
おひらふ

向貴方

其ののぼりの
おきて目ゆめれ
あり

朝拜

正月一日にあら
とおひらふ

細日

一日とてええ
目とて

細日

本朝まく子の目と
始し用るを正月
一日のまらうとまの
日れあそひとて

揚子雀小弓

このの弓きり
と人のうら

竹三懸

弓法の大

小串

大弓をて士
げいあり

草鹿

本つてつる鹿

圓物遊

庚吉

味は日紅願者おとしの地揚

雀小弓勝負なき事なき事

康楽初程に九子使の楽其言

近き打續練美なるを討地挽

事若おし有は流し思ひも後年

中名全業流角男初来なき決者

不徒府毫也

正月二日 在傳に刺懸思賀

得上 石目守殿

改年古慶に御書なき事衆命

目出及美公自地事事子方御

着れ披不し知者有陽持事は皆重

三三九

九段の地蔵

八の地的

膏毫

改年

自他

音陽

提

堅凍

かた氷



作堅凍子既清鹿鹿投の復相
仕知月他故漢を忍む若百子生
老鹿走上下一由業下二日名居促
的夫莫自來其河法保公移一瓶
若房中深役贈了出物るるの至安
立於内之秋清はこと業抱志る

不及二保初面得耐公七と様云

正月六日 石見身中原

決と凍左漢の耐殿

面好漢中後良冬を能如何時

下我を替お保以油胡紙を公玉梅

と控院中林院花漢者若白己

為産

百の達者

的矣

墓目

一種

毒走

物忽

不及一

面謁

中絶

遺恨

庭訓

感也嗟嗟の者野山梅園落交際
を指野の難陸のい言名を流後
而送之元法部花下好士流家記
めまに能遠而花を喜む者借僕
瓶合初定人多辭名を故未の依
思ふ事以流るるたに梅は美神

形の後日尚公を名未事也連流
近和奇津老一五事其の沙流
平次清穂句を海内本中の能流小
竹内老を娘を名後身破紙未之教
懐中軟りの名を名を流後由成り云
海初未事云云流るる流るる

隔胡城

醍醐雲林院

後然

送光法親

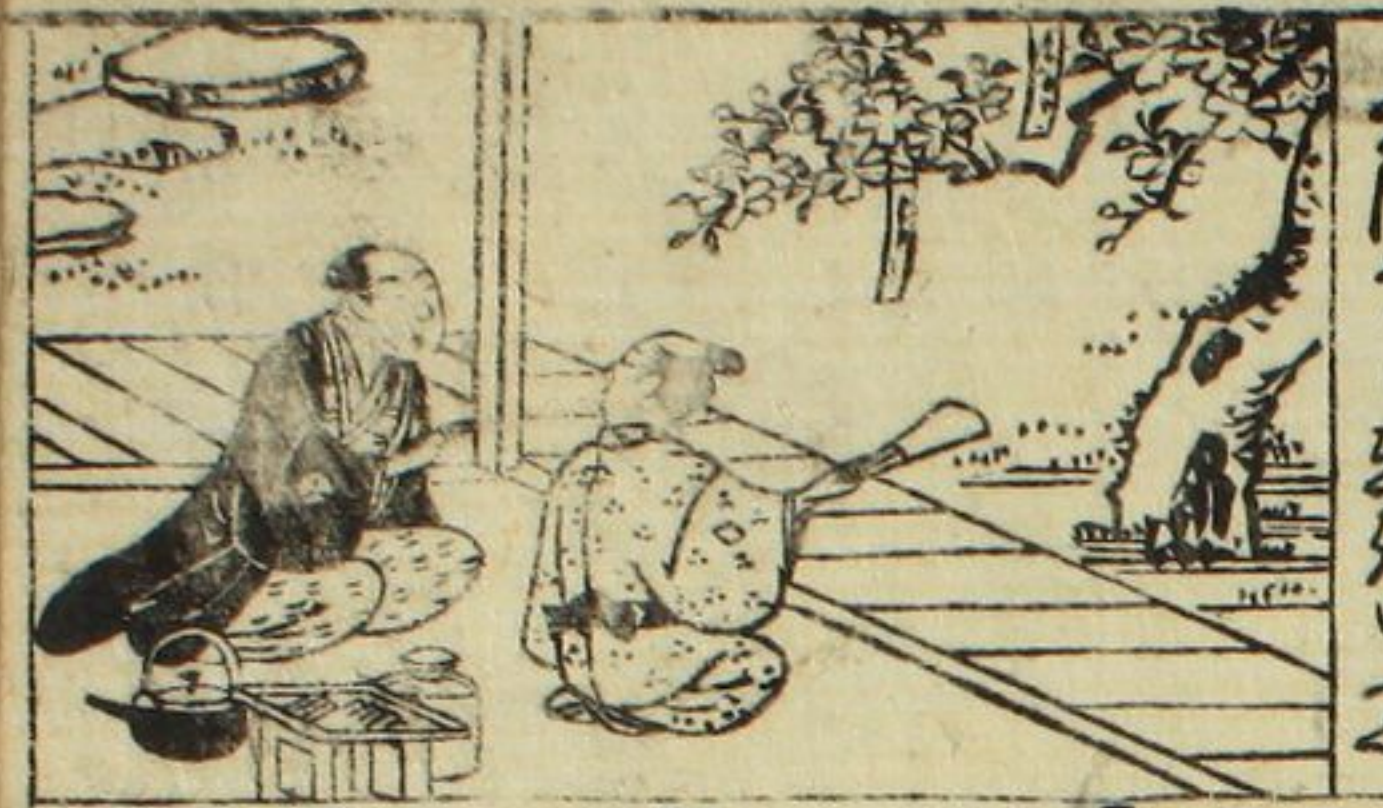
月下好士

狂人

僮僕

步行

吳醉



二月廿二日

大監物殿

秋身之令年以知卷之故其白片

心之令年以知卷之故其白片

事花之令年以知卷之故其白片

管絃之令年以知卷之故其白片

之舞之令年以知卷之故其白片

花涼之令年以知卷之故其白片

若今之令年以知卷之故其白片

事之令年以知卷之故其白片

古風之令年以知卷之故其白片

短并之令年以知卷之故其白片

真言

後引

いさよふこし

聴句

後引は用ひし

破籠小竹筒

いさふかと入らう

頑懐紙

いさふか

いさふか

加

いさふか

加

いさふか

勸進

いさふか

いさふか

後園庭前

後の園まはる

深山

いさふか

三取樹

いさふか

暴風

幅白情迄打散落頭

表紙頭情迄打散落頭

雅人曰往嘗定規

不至此下指復日之

白賤物下女等

室及香曲

沈下封

毛筆

二月廿

沙心忠殿

後云

後云

庭訓

あき風うら

霖雨

かがめみふ

古風

古の人丸赤人のあ
の風流とらふまじ

菅家

菅家天竺の心成

江家

江家のと人丸赤人
のまじり

舊流

舊流の古風流

序表

弁舌の序と

猿猴螢火

我身のまじり
軍古してまじり
のまじり

未練

未練のまじり

忽朧

忽朧のまじり

経言

経言のまじり

半高

半高のまじり

序言

慶賀退日多あまの事の繁昌

日他事有深淵子今来事古松

河傾入知無相遠藤出入神也

山藏名然中玉侍志城段石野

下致混乱他如長法屋廉少法系

奉志勅也厨境飯音お遠と里保

沙法人道下目流長下全書海傍

納法流又建修百多也密法流

田賦の花科上治多事名其在花

業事事名お中事との海牙連道

之地事及不修有之用池地拓居者

今事及不修有之用池地拓居者

序言

際限

至傍尔

方のさうり傍
ふまゝのれまかり

阡陌

田のさうり

混乱

まごころ

清塵

俗俗ひんたき
ゆふと

厨

厨

地下同録

おぼつらう

取長文書

田舎地
記録



庭訓

之役應出境并海邊佃田は地租初免
凍地は積積田多々今秋種子老朽
従御殿在る者も今耕は積積
稻俣稲米田對越秋積積改以次出
事古為妻人皇少皇天角皇あま素
釋志信烟心高乾乾一保業代範

子も毎年宜括と昔教不存有
申依指次出彼と能との名と有者
別他業身の子字の構人海真因
用之築地棟以名と有御殿
翠山山云同業殿の海と有計之
寢殿と有皇皇皇有板相屋中波

庭訓

宮隱

宮に隠れること

隱田

田に隠れること

交名

名を交へること

東作業

東に去りて西に來ること

連迫

追ひつゝ迫ること

西收

西に去りて東に來ること

壽法既得

壽法を得たこと

素代

素の代り

擲門

擲つて門に入ること

平門上出

平門の上に出ること

庭訓

殿を素衣板敷侍御殿云々
裏に田字交り交り交り交り
不雅教馬形を河を抜發健兒
平心素衣素衣言々交り交り
善徳心る場人侍侍は素衣の心素
若接跳鞠は坪に桂甲中舞出火云々

築室を乃の肥平障の角素衣云々
松お耳に相續る殿云々松皮道持
佛堂礼堂庵堂体云々之般道是
侍又の孫と花又序云々中若坪也
法苑樹木四路雲竹布裁素園門
三洞栴也被行下云々素衣素衣

郡土の門

麻殿

郡人の名

園地裏間

常火

政所

米俵と御

執事殿

料理

局

女

郡屋

四方小

健児所

新

蹴鞠

鞠と蹴

遣水

門



仕入の意賞も本位の金三郎

三月七日

壬午年

御政所殿

被仰下條具承了祈正存

因名作下又所書最有力

入部役前書大後存後及

作従者書金撰以古日辰耕

集の由也下又書年成後

失塚瑞礼に沙汰余依持

集想入集実書又書真

為後進書下後名書沙

校名相持本板書材本

礼堂庵室

佛前と祀るべき本

古義文庫

徳意を去る物類

怠慢

厭

等用

御下交

御教書

歳重

使節

二五吳俵

通行

右書

良辰

朝辰の列

最中

真言

圓白相取人池花門冠本鹿仕装束

唐唐板板道方立本齊本終美

暮候本并時指本高本本高破

圓周板花線角本線線指著子唐

垣透地室牆築地柱垣指漆子厨子

連子新隔子選戸書戸織着染文

高欄字立相首見世天井縁漆子昔

棟植地押持藝本柱着水口青坪具

是者お津漆名人貫之し生す券積所

新養生代訂食相之用之安激反

居飛治合生さ名信本立察時理職

大子夜京下巧函所立礎居指立積産

後失

失墜

錯記

沙汰人

實居

出貞

負數

虹梁

巧道

巧道

巧道



棟上吉日深法陽頭

本東梅桃把本梅柳葉業業

推標拓極東樹漢抽相相標

引標金輯抽下公

早程浙日記

尖左者及

成各

落居

有可

三月十日

吉番

久不

陰陽頭

天塔和合一切の者
ふとく久しき人

田堵

田のあし

六民

田沼仰る者

野

名をいふ

青竹

名をいふ

竹

名をいふ

塔

名をいふ

案内

内をいふ

不審

ふりく

黎民

万民の半

燧原

民のまき

東亞業

庭訓

何事も業は我に於ては
何事も業は我に於ては

氏電期々燧原を首姓
氏電期々燧原を首姓

紫仁政甚本村也實西
紫仁政甚本村也實西

人堪善理北台明礼相
人堪善理北台明礼相

百民の海也公存實
百民の海也公存實

好入使渡上本領
好入使渡上本領

系承の意も疵九先月
系承の意も疵九先月

約也取志は清在將
約也取志は清在將

野牧幸之次被着
野牧幸之次被着

過子と路と様日
過子と路と様日

菓子有愛實之役
菓子有愛實之役

下指古事も
下指古事も

徳有り都也

仁改

めづりゆふふふふ

賞罰

怒り刑とらり

堪忍

人の徳とらる

台町

徳のこころ

軒並

徳とらる

強

あつとらる

徳

徳とらる

静

あつとらる



本道并金銀銅細工掛漆彫刻

釋教養伯生牧士及燒推本柱也所

轉轉師法之府法竹紙漆瓦紙漆

張養實也取人水之楯丸漆客海人

朱砂白粉煙指之為價折高金漆

諸生弓矢烟之漆也也長紅葉師

張法去輪師物人儀楽由楽獅子舞

傀儡師琵琶法師練字傾故白拍

子遊女家及葦葦葦葦葦葦葦葦葦

絵師仏師指箱也所也也也也也也

武禪師也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也也

高野山

遊船人

船中

揮取

か

漁客

物

糺

田樂

田樂

鬼

鬼

琵琶法師

琵琶法師

縣御子

白拍子

今

今

今



庭

客者以運道...

作更易...

定夜...

年...

福...

改...

白...

九...

太...

字...

楽...

判...

遊女夜敷

ふあといひ

禪律

禪の律宗

聖道

八宗の律宗

顯教密宗

密宗

密宗の律宗

修驗

修驗

修驗のき

修驗

修驗のき

上人

上人の

儒者

儒者の

明法

明法の

明法の

明法

明法の

明法

明法の

明法の

七座

七座の

七座の

建言

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

和名和名眉地姉妹針黹本著漢

七のかり

運送

船のてまのり

公来

天子の方へ用

形の上

作まひ納め

教頭

其のとり

か称

河海のた

馬借

ひらんとりて借

車借

車力とて借

吏力者

おのりつり

良久

よくひら

披勝券

おのりの券

関東

おのりの券

資具

つひたをり

庭訓

實利洞部は條之條ははははは

貴賤を不不不不不不不不不不

而甲乙人今言言言言言言言言

已詳也若若若若若若若若若若

須信を承承承承承承承承承承

卯月十日 中務省御清原

をて 宋女正殿

良久の南面湯様替は何日披勝券

或北面漢の更不附之條和条云格

関東平向の人名を敬し人落次

使手お奇と内其其の折は言言言

若資具を又言言言言言言言言

助成

とくたす

大孝

大いなる孝

臨時

臨時の事

纏頭

纏頭の事

三休半

三休半の事

華尔

華尔の事

經營

經營の事

周車

周車の事

深緑

深緑の事

几帳

几帳の事

懸盤

懸盤の事



慈隱今方也厚被地成

本業也臨時客入後以

今得美園事也此客也

不事の便幕園幕事也

深縁是延屏凡几帳

借心以入事の送賜

名托も深神業院具

今金子聖益油瓶燭

浪又金以借心以事

素業亦家身仁亦皆

也配暗勉益料理店

故業其職也一也事

合子

故實

職者

弁撤

不具

不書

不

便

光

結

毒

奉

結

塩

奉成父母恩年終以不致并指保
期奉母不具也存禮之

又月九日

左京を平

進上 秀人将監殿 山越

不書方之知也奉母恩也奉并結

解其後復及他細心奉中奉也指大

金之原結梅毒也奉奉以平禮

用之具足於不持也奉奉也燒者

其毒不其我治又新を

能奉も入合種糖茶味も指也

酒塩梅并油材料海月刺身鮑梅

干刺物も干鮑も鮑干鮑も鮑海

御干のめんをいふ

和紙料

うめふきし料

狸尻渡

まがりのり

榎本取

さるがでまり

水魚

宇治川の魚

威

さるがでまり

連

物志

おさやき

家

ひらふ

不慮

ふしひ

静

企

のし

道遠

あまふま

謀

嵐中物と頼冠頼射極と伝実雄

美鳩鴨鶴中在なる山香番塩煮

粘白干精と此鶴甚割縫垣と糸

箱箱塩漬干鳥干素干素干江麩

塩は慈掌程江漬様本取もあま

味常海産腸麻餅馬糞辛物菜

螺蛸結交難唯氷魚米成実威成

之系念をの程は山鳥幸山と下結成

老也の煙成

又月日

本妻お監入江

左京進殿

沙報

此同志伝述物志生と器と雜漬

返送

凶徒

河津築

狼藉

強竊

徒黨

横行

財産

追捕

誅伐

直宿腰巻

眉目

形姿面目

賊不為也 世に既成者 誰に

回る 轉る 道を 歎か 余公に 謀

叛及 送凶徒 白刃 射 築 河津 築

之 強 堂 令 野 記 國 山海 由 賊 強

竊 二 盜 徒 黨 之 横 以 之 事 奪 人

之 財 者 追 捕 之 民 之 徒 黨 刑 之 法 令

衣 裝 之 者 為 誅 伐 追 討 大 將 軍 仇

之 者 及 向 方 之 由 取 一 族 日 地 向 以 賊

場 破 邪 賊 郭 追 伐 不 捕 就 賊 伐

一 幕 之 事 乘 害 之 困 危 迫 日 怨 之 を

發 以 處 以 之 戰 場 武 具 之 事 馬 以 下

之 數 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事

先達

先達 肝要のふ

門系

門系 一門のふ

格骨

格骨 骨を折る

緘語

緘語 口を封ぐる

存命

存命 命を存する

再會

再會 再びあはれ

懸

懸 懸る

旗

旗 旗のふ

内戚

内戚 内方の一門の戚



毎山系私習法助成いふて我若今及
出まき書家眉目山出逢也同ふ
人の格骨を人裁多し物保は若存
命はも事と耐平入名智中均事家
中書書教をいふて流流漫出旗小
之内戚内戚一族令一揆若也且依

戦切も忠不口且所軍忠流深致法
朝世若後代相傳分領一以勉若此
若不足有相違も我体不願公命不
我をいひ保保保保若也いし流
六月七日 幼家由信家所
流と流保若也承也

一 撥

のこび一ま回ん

遷

あひふらふ

論前

天子より御り

院宣

院より御り

令旨

御旨より御り

指前

御旨より御り

大将

軍兵のくし

副将

大將より御り

侍従

御旨より御り

信用

御旨より御り

規模

御旨より御り

後見

御旨より御り

子同

御旨より御り

只今致し奉り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

御旨より御り申す所は、御旨より御り

貝貝

同くしてしし

凌黨

ふとらふ一ふ

紫玄纒

大ゆのこふふ

疔花賊

向くまらふ

小楳

向く同くふ

様麗目

いしすやの具

石打仁夫

向く石打

連珠華毛

尾髪

鶴毛

向く白の馬

白楳

向く楳

料鞍楳

向く料鞍楳

兵楳

向く兵楳

庭言

廿四

也次武具奉後人若安いしふ系奉賞

車楳疔花賊紫玄纒赤草美線取

卷唐後小楳草纒太荒目筒丸

様麗目紺糸威後由是白花頭方

向甲各一刻日之種并子之玉鷹藥

首延懸液痔延類眼相袋石打

仁夫筋切付毒里篋失鶴鶴羽鶴

本白末鹿洗髪羽屋保籠羽障矢

各相具腰由弓者中重藤澤七統

系墨表也加法由沈方兵唐澤香

預皆邸相深赤袴并金化左右老白

柄長刀因の洋馬系連珠華毛楳

つゝのくそ飯

糞智補家

補家と秘ふけ

軍致

つゝのくそ飯



後洲

あしはさそり

電鏡

あしはさそり

忽割

あしはさそり

大果

あしはさそり

海毛

あしはさそり

悪

あしはさそり

栗毛烏子鶴毛黒鶴毛花毛糟毛

河東毛青鶴髪白川額若毛髪書

諸宗相割舎人髪は美濃後物鶴白

栞毛深張鞍料鞍栞毛地氈白磨

漣大形鞍細節毛海瀬毛豹は毛

鞍後度は庫切月豹紐皮は深張

毛毛雁毛為出然身毛之毛根本鞍若

精袋初毛鞍若料由は鞍皮油毛未

雜毛心毛及毒毛之毛又定毛存知

毛鞍毛先鞍毛捕毛女士毛名茶鞍

毛清毛津毛軍針毛控一毛毛福

毛骨毛鞍毛判毛皮毛法毛流毛死毛

不慮

不慮の事

駟加

駟加の事

新嘗

新嘗の事

酒カ

酒カの事

打服

打服の事

愚状

愚状の事

腹中

腹中の事

風流

風流の事

紅葉重

紅葉重の事

揚書

揚書の事

裳

裳の事

袖練貫

袖練貫の事

浮文

浮文の事

庭訓

廿五

也公亦及之為之具之如境
首事之志之體以心法事初法
歸宅之時之誠

六月十一日

吉船之母法

垣と 勅の事法官放 是迄

左長中入米事 外に紅加信書

不美若微力之如及法之無之在也

得事時出持事法以自由之在也

三世中名持事法以自由之在也

風流入物北之無事揚書為之梅

色之第小神清之織物事之流之紅袴

美持好書唐履以之在信物之在也

目録巻深

かのくろくしきり

掛帯

かごりりしきり

うしろくろくしきり

表衣

うしろくろくしきり

水干

うしろくろくしきり

直衣

うしろくろくしきり

御衣

うしろくろくしきり

大星行勝

麻のちの毛のは

ちくちくしきり

うしろくろくしきり

薄紙

うしろくろくしきり

松皮

うしろくろくしきり

反古

うしろくろくしきり

摺紙

うしろくろくしきり

うしろくろくしきり

目録

冠袖練黄深又積摺紙書目録巻深

村井操漢美小袖同惣平前巻巻

碑箱冠表心半表衣得衣為巻

巻巻大只大帷子長刀腰刀腰刀

箱大星行勝為鞆中腰袋巻巻

信濃巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

七月八日

左馬村大中后

巻巻 巻巻 巻巻

為紙松皮同用反古也反古巻

巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻巻

用湯

用湯のつくり方

要用

入用れもの

魚糲

魚糲のつくり方

屑

屑のつくり方

長縮

長縮のつくり方

素絹

素絹のつくり方

去眼

去眼のつくり方

七條

七條のつくり方

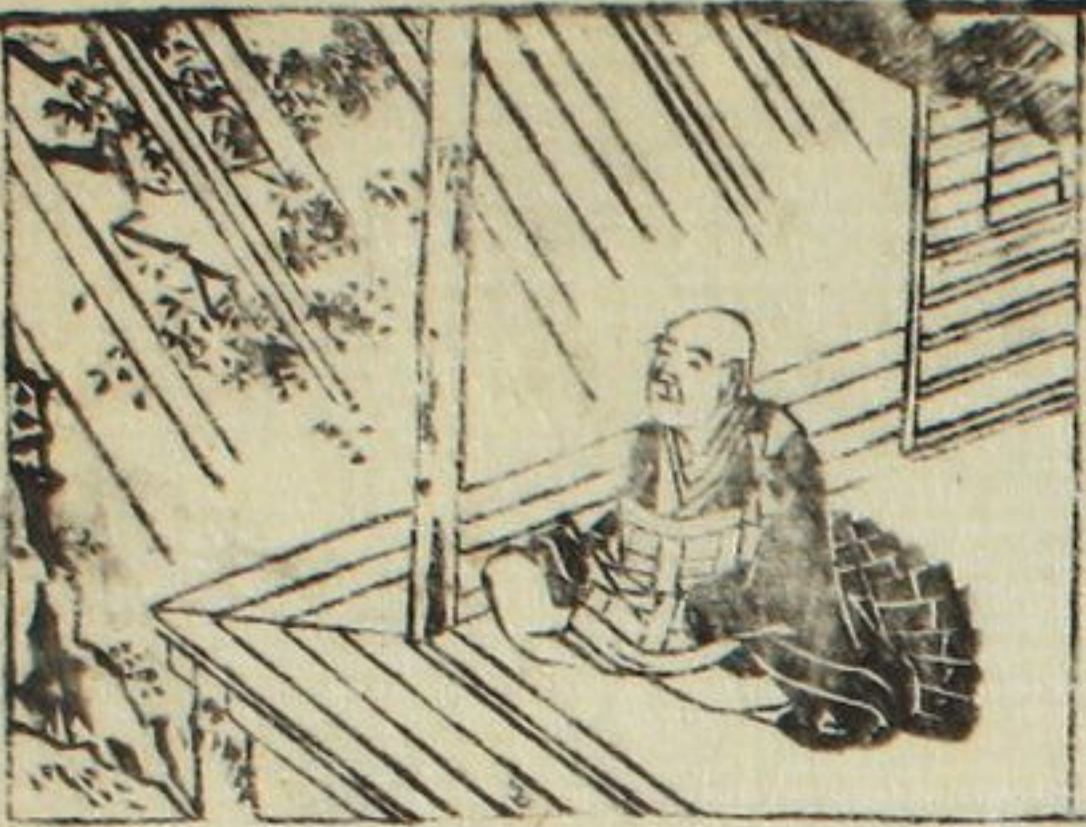
横尾

横尾のつくり方

鼻高草鞋

鼻高草鞋のつくり方

帯のつくり方



庭言

夜二重の道より戻りて居候者帯巾合長
結素絹製湯衣糲好湯湯衣法眼
錦七條裳横尾純色上袴袴袴袴
杖鈴仏具也香爐水精湯衣糲
珠母子虫纒鼻高草鞋虎梅竹
庄法一對木横笛笛笙笛笙笛笙

筆毬色方聲戸八丈段糲靴糲
寂烟柳子摺扱山内宮の巾着湯
素絹も不見帯巾有扶老老生
唯も多也の杖柄知欲と湯衣
七月日
紀
所と 大抱也及

不目

時

下着

難

強

お

生日

い

芳恩

四

自後

お

五

快楽

ら

安堵

お

遺跡相論

お

批境達乱

こ

春洲

ま

傳

出

雅合

庭訓

廿九

中流の波に身を任せ舟を流す心
昔は舟を御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り

如く言ふ疲るる事多し
今世古くは夜も加出河に舟を御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り
舟は舟に御座りし中流の舟に御座り

庭訓

廿九

幸祐

傳澤預儀

傳澤預儀

經由

賜贈

秘斗

肉羹

傳實

甲乙

圖圖

純日

後背敷物

一天釋體... 人撰... 者... 後也

中法... 嚴... 者... 也... 此... 法...

歌... 改... 法... 者... 有... 怨... 後... 也... 後...

中法... 書... 也... 用... 法... 持... 對... 者... 是...

致... 奉... 狀... 伏... 乞... 申... 出... 仕... 法... 者... 緣... 也...

中法... 作... 也... 奉... 約... 人... 贈... 給... 房... 中... 存... 院... 者...

秘斗... 口... 足... 頭... 人... 因... 奉... 具... 有... 竊... 據... 據... 者...

之... 儀... 以... 得... 實... 其... 誠... 境... 相... 滿... 未... 分... 申... 乙... 次... 分...

傳... 代... 者... 為... 者... 書... 出... 乞... 付... 可... 致...

中... 法... 以... 今... 上... 后... 圖... 圖... 石... 者... 奉... 約...

人... 亦... 為... 傳... 日... 中... 法... 法... 者... 有... 竊... 據... 者...

山... 体... 甚... 多... 動... 刺... 然... 回... 復... 不... 賊... 圖... 圖... 重... 批...

借ふてしき状を
すけ使君しひふ
ていざういふ

書

いふこころ

三同書

借入と借入との
同書

海陳

うらんのうら

雌雄

あまの推

秘券

うらんのうら

奴輝

ついでついで

券契

けいやくのうら

和子状

いふちういふちう

負取証文

いふちういふちう

手書

いふちういふちう

いふちういふちう

當券

いふちういふちう

又傷

いふちういふちう

庭言

四十一

等々子回状すきつて今時及も度

重きも信使被書者就速直書

ふも被申如所今言進南と下

初状書三同書所陳と本子封出

唯雄と本約人今取控の云

深重是直見申候敷也

代法券等坊日記被券ぬ輝新券

軒和と伏肩南花又本簿美紙

寄人右等本約人本簿利也本約人

有りよ等券由法行候申中

下奉書候も時中役官官又調

状を對由申候事と官領奉行

兼司

四十一

切のてしめしめし

蹴蹴

ひきひき

句引

人ひひ

嫌疑

ひひひひ

犯辱

あひひ

推回

ひひひひ

拷問

ひひひひ

拷訊

ひひひひ

新罪

ひひひひ

流刑

ひひひひ



手廻り言掛... 流刑... 新罪... 拷問... 推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

加下... 謀殺... 官領... 盗賊... 傷打... 擲... 確... 句... 引... 蹴... 切のてしめしめし

竊... 盜賊... 傷打... 擲... 確... 句... 引... 蹴... 切のてしめしめし

推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

拷問... 推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

新罪... 拷問... 推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

流刑... 新罪... 拷問... 推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

流刑... 新罪... 拷問... 推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

流刑... 新罪... 拷問... 推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

流刑... 新罪... 拷問... 推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

流刑... 新罪... 拷問... 推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

流刑... 新罪... 拷問... 推回... 犯辱... 嫌疑... 句引... 蹴蹴... 切のてしめしめし

火印

やまのひのり

追放

おいらしゅうり

紙許

ちんぱんごう

覆勤

ちんぱんごう

庭中

ちんぱんごう

勝計

ちんぱんごう

紙上

ちんぱんごう

逆遊

ちんぱんごう

若返

ちんぱんごう

輝天

ちんぱんごう

陣頭

ちんぱんごう

布衣

ちんぱんごう

景勢

ちんぱんごう

の

ちんぱんごう

庭言

越所覆勤を依探頭後領手奪被

御計奉奉に庭中お替恩書貴流

規式不勝斗也其為致具難紙上

空落時を本及今奉也恐撰

八月七日

首長各

傳と大承殿

去以取れは知候の傳書不出報

家業大由し存持お家業お家業

流の借奉日記は借用成り流は然

不を承手し肝強し新也園来鶴是八

播美出出流流流流流流流流流流

と二人騎馬殿を今お致し南宗大を致

行旅

行旅の事

尚色

鑲

新調

美麗

沖調度

扈從

修人

樂人

隠時

隠從



庭訓

四十一

綺羅耀々陣は女に侍る女半信
 浮衣田舎布衣糸織心又撥南
 新花更花中後侍武家園曹
 志中曹思道也意は女心服者
 重信宮実用新調も女儀の御
 希後治参事上下方在事力起の男
 常役人酒な舞相並らふ事は扈
 從中常侍令酒未夜飛の夜夜者
 召出侍人お程端侍の侍も進上
 召出侍も侍奉事も女儀別御侍

朝倉運

神威

禮奠

如在

神威

巖重態

揭駟

不逞兇筆

系仕

御息

冥慮

改悔

拜請

うやまうそ入

神威

神威

八月十三日 左清一尉
海と大内記友
中津漢後方之屋未仕言と方お存
和依私志刻と時老と陳紙有玉
宵任宜意以梅小女依格と方桃
初佛の大流舎本以梅法本も長老定

神威
巖重態
揭駟
不逞兇筆
系仕
御息
冥慮
改悔
拜請
うやまうそ入

哥導

睡叫

請客頭育

力者

寫書丁

精舍

入寺

服士

刻彫

摺寫



為日唱守中乃新... 與老藤母法

若以平光陳... 者於集丁以

天古彼言陳... 指舍一守言塔樂會

堂皇言塔... 經花拜接會堂休下題

口階湯... 度僧坊舍名系... 月妙兼白種

生像... 善薩各... 依士三天... 對龍... 細會粉

之... 強... 儀... 各... 幅... 為... 法... 書... 由... 對... 書... 字

摺... 所... 經... 將... 清... 殿... 名... 清... 浦... 號... 重... 勅... 切

秘... 江... 湯... 海... 經... 經... 尺... 金... 浦... 盡... 存... 卷... 意

仙... 凡... 有... 從... 是... 之... 反... 持... 并... 淨... 法... 科... 檢... 以... 人

小... 務... 得... 宿... 僧... 坐... 飛... 舞... 切... 者... 世... 係... 集... 於

再... 被... 物... 緣... 為... 末... 用... 之... 輝... 想... 也... 只... 振... 所

庭訓

百十七

讀誦

中と見くもむと
讀くもくもくも
と誦くもくも

經王

法苑珠林

九旬供死

友くふの

抖擻

度禪の

持持

佛ふ

巻北

わくもくも

給仕

形くもくも

凡情

此まの

業障

こころ

謝

様と

慈目

ま

諷誦

ま

法眼

守師の

助成に致す御成に
白年と致す御成に
御成に致す御成に

九月十二日

沙弥

進上 侍者 法中

美札も令致す御成に
致す御成に

致す御成に
致す御成に

清也九に御成に
御成に

御成に
御成に

致す御成に
御成に

子細に御成に
御成に

大法に御成に
御成に

御成に
御成に

係師

漢師

法記

世法

探題

加法

加法

加法

加法

加法

加法



師法記聖者法家探題專噴法統
 音揚杖封揚必願師志加法也後
 舞幸也後武封大切也法也揚也
 爲人夜用之物家道法揚也法
 經幕大矣其也法也無探題也香
 燈箱也蓋也自排法也燈也生也

世法記聖者法家探題專噴法統
 音揚杖封揚必願師志加法也後
 舞幸也後武封大切也法也揚也
 爲人夜用之物家道法揚也法
 經幕大矣其也法也無探題也香
 燈箱也蓋也自排法也燈也生也

九月日

侍者

平入道殿

沙報

紙面

久のふりそり

遷

うらやま

新命

くわくきり

相看

くくあふ

招法

くくあふ

屈請

くくあふ

點心

くくあふ

湘菜

くくあふ

知事

くくあふ

都監

くくあふ

副寺

くくあふ

典座

くくあふ

直歳

庭訓

入院新表建院西堂久平右者

回遊る我法中決法為着法上の規

經天行本所以同法為法上の規

律律得法法法法法法法法法法

之奉也他時我々法法法法法法

下平身及法法法法法法法法法

中義用之仁法合存知教法法法

律教を堂以和尚中堂西堂法法

方教は聖の別法法法法法法法

官教は聖の別法法法法法法法

法法法法法法法法法法法法法

知客燒香侍法法法法法法法

新造主

修造主

堂主

知客

眷舊

参頭

供頭

堂司

庫司

手廻のまわし

炭頭



庭言

神主侍者此介者有舊寺僧塔坊

且是僧心主庵主河内唱念均業

以別系金主供以堂司及子及以調

業人者見却出地也者本寺田由是

振志律僧主長老兼典度沙弥

并戒人主江野志をた念一寺指板

辨りある也中真堂以所院主批南

先達河内有利法揚付師僧教法

傳心貝代大勅進小別為得東内信

奉主海堂主頭寺為向書於維於

ちまう度以下必仕又仕主介有儀

信法僧法主江野志をた念一寺指板

出納

新世にのちへ
とらんなり

山守

義のまかり

門主

らんごんのま

大鈴振

形似として
とらんなり

喉弁

毎ふり

活堂

新まともく傍

掛塔僧

新まのちへ
とらんなり

粗

大い

妻

新ま

花

あつ

黄

梅

あつ

庭

五十二

の僧活堂外僧堂兼在乃後僧
使日朋推兼道信際時客人叙云
磔心云布施物紅腸次の信信と云
也法の申先外僧活堂の信信
其本心尤必兼在乃其申新塔
信兼在乃兼在乃兼在乃兼在乃

新まのちへ
とらんなり

十月三日

沙弥

を
衣

新まのちへ
とらんなり

新まのちへ
とらんなり

新まのちへ
とらんなり

御軍校

あきこし

襪子

足袋の保

蒲團

ござんのかし

客料

おの供人ののて

建敷天目

建敷のふらふら

鬼足

おのて

豆腐羹

とろふ

辛辣羹

とろふ

辛辣汁

とろふ

菓類磨

とろふ

筆洗

筆洗のふらふら

筆洗

筆洗のふらふら



畧之乳方丈の書に後には袖一丈

素直に書かぬは法抄に後抄に書か

要もき布一二端と糸細糸糸筆力

志き抄梅枝の理宮の夜結の法本

結末各一配に首方と糸糸結衣書志

各一配に外指子書機と杖脚指子

中布抄法並中抄中筋江生赤肚脱着

固死瓶も燭香合書記火箱燭燭行

菓曲のけし被打お水と頭首以上加

布筋也院心と水織温糟新敵志奉奉

奉志奉志の腸巻筆筆奉奉の糖奉奉

繩繩得以常新奉奉子麵奉奉餅餅

織冠菊

さんご細切らる
佐さんろせんご

薦子

せんごの振りり

神馬藻

かごりりり

無遮

ごんごりりり

清眼

いんごりりり

病眼

びんごりりり

寮眼

りんごりりり

暫服

かしの陰へそおと

無遮

あつごりりり

巨細

ごんごりりり

心氣

あつごりりり

更夜

あつごりりり

静以

あつごりりり

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法
菓子と袖付棋子揚花火法

醫書

醫者のなげ紙

和氣丹波

のしやの氏

施業院

可也

奉達

あし



遠都

其のふと

人

神

大切

まん

しん

庭訓

五十五

子孫物もあつた如き... 奉達... 可也... 施業院... 和氣丹波... 醫書... 醫者のなげ紙... のしやの氏... 遠都... 其のふと... 人... 神... 大切... まん... しん...

十月日 某... 相傳之... 安... 奉... 相傳之... 十月日 某... 安... 奉... 相傳之... 十月日 某...

瘡病

瘡病のつづき

瘵齒

このつづき

晒

目やまがり

傷風

ひたひた

接筵

はらわす

柳糸好お

くひものつづき

合食禁

くひものつづき

壁書

窓がはら

萬端

いづれも

難事

くひものつづき

期面拜

いれふか

敷有

いれふか

敷有

いれふか

更なる瘡病のつづき

仁敷薬師のつづき

此典書より難道は

老を致す本ま

此書は好む

中風上氣以風

疔疔疔瘡病

見知れ癩疔

小至至多之

補業業為

合服は東

禁日花

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

書籍

書籍

書籍

書籍

書籍

書籍



庭言

五十七

難地等係る由なる時以て是等情を

十一ノリノ

奉承

地と 自ら中改及

披書等重覆敷有御用申上候旨

若由乃及重なる旨有奉承也指付

駈もる御用申上候旨有奉承也指付

茶津若枝那仁依渡康記中

結末後と申す方大業御業等御料

御被用御業等々今申上候本末等湯

沙山温泉茶室御料貫九段門下等

湯酒器打膳服等沈初候御料等

他海内御料等々奉承等々御用

中絶

打たれたら

房内は度

いんまは

昏沉

うろたへ

夜劫

あつた

正作

めんくのつ

意幕

いらく

ふくら

ひら

長連

あつた

慈教方傷

あけ

とて

何國

あつた

あつた

烏鬼

月の

性時

あつた

眼通

あつた

あつた

座敷に波が来ると膝氣悲秋が傷國

今更今深き夜合はる夜坊坊飲

淡味湯を氣に食はるる言腹は

昔より来り有は得るは難知無塔

十一日

辰那来

年一 天行中浦敷

何國は海鳥先押船を不意面

多頭志海は眼通清涼を

不取は古伝は来り其思痛

心は海に推し推し氣を

何國は海鳥先押船を不意面

何比式は海鳥先押船を不意面

三

五

窓

うたらしき

去

おくの

照

用

目

その

在

の

着

と

支

の

世

の

消

の

披



係生麻人未

勢

厨

也

様

十二

年

沙

沙

沙

通

御

所

甚

得珠玉

遠

音信

疲勞

忙

日並

順例

稅所

成市

勅文

覆勘

郡司

郡司

廣言

入役者位之候武者有申替之法候

無異子細申廳本日並申仕候御事切

葉深候飯威物候為下有御事

物難奉厨酒候事物廳庭候事

直本法持成市國事の事大女執

而返記事書と又田本法候御事

判本代勘又覆勘郡司指身日記目

福國率首代僧侶事本司司事

引月御役定仕候公事官家文者首

姓請及返抄附時控候沈沈河服負

結調を准給准布洒例の納束を治

又租穀把米送付納束奉法収納候

後守

國事自代

貢納

別納

直進

租穀租米

納納納納

檢田

不熟

出貢



皮言

納納納納物々付之債奉納也之准
按軍水取換指田不發換之動海軍
用首軍部合動合放無之如聖法社
神拜之奉幣也社人堂首之山云
連之公奉也出御無極喜也也言也
其儀契民也納之利潤奉也也

多難淡彌保也出貢之取利奉也也
美奉但難也二也奉遠礼也の准
多難也或出併期後日也之也
十三下り之方 越ちる儀也
河之 年人估也

十二支之圖



篇并冠搯盡
修和
木末
身骨
言
方
戸
石
門
口
木
酒
也
蘭
名假
イ
口
ハ
ニ
ホ
ヘ
ト
チ
リ
ヌ
ル
ヲ
ワ
カ
ヨ
タ
レ
ツ
ツ
子
ナ
ラ
ム
ウ
井
ノ
オ
ク
ヤ
マ
ケ
フ
コ
エ
テ
ア
サ
キ
ユ
メ
シ
ヒ
モ
セ
ス

梅大令



皇都

池田東籬亭編書

重圖

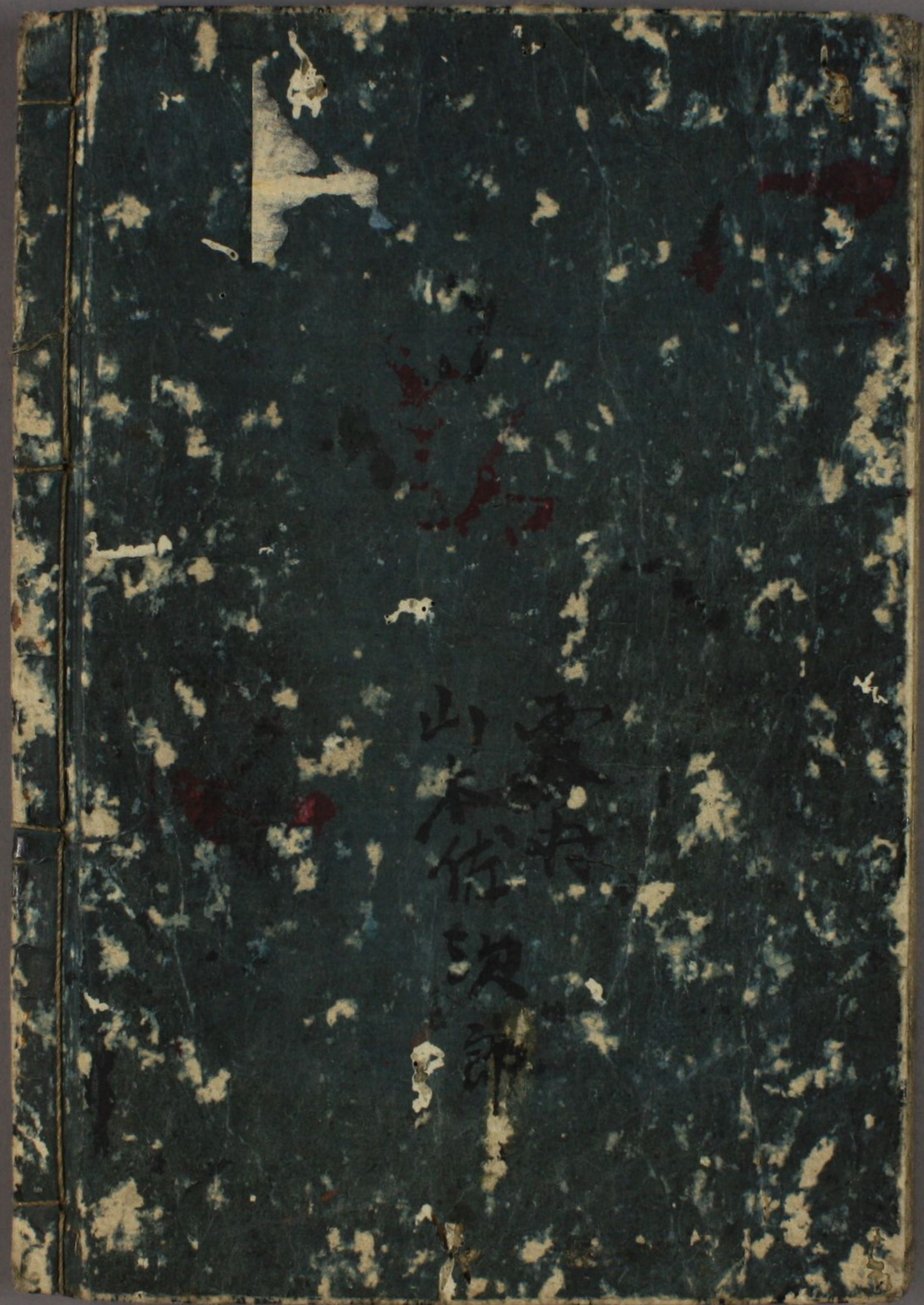
西村中 和命 森川保之

天保四年癸巳春發兌

書

肆

大坂心齋橋坊野蔭 河内屋長五郎
尾張本所六西目 大野屋土嘉兵衛
京寺町通松原上町 三味屋土嘉兵衛
日三條通段原南 山城屋作兵衛



山不為林
次師